

さねとう あきら先生を偲んで

童絵作家 池原昭治

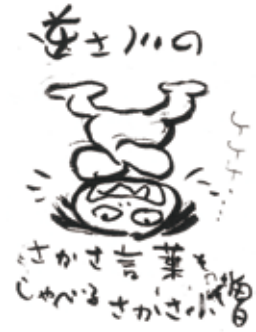
思い起こせば文団連10周年の行事が終わったある夏の日、さねとう先生のお宅で「今、狭山の百妖怪図を描き集めています」と、数点お見せしたところ、手に取りじーっとご覧になり「これ面白いですね。やりましょう、物語書きましょう」と、大変乗り気でした。

12月に先生にお逢い出来るかと楽しみに市民会館に参りましたが、体調不良とのことで、驚きと同時に心配しておりましたが、他界されたとの連絡を頂き、心から落胆いたしました。

狭山の妖怪物語を創作することに張り切って本気で前を向いておられた先生、さぞかし無念であったことと、思いを同じくする者として心痛みます。

ご一緒に創作活動に励み、完成させたいと楽しみにしておりました矢先、残念で残念で、本当に力が抜けました。

さねとう先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。 合掌



『さねとう あきら 民話の世界』の思い出

狭山市文化団体連合会副会長 板屋捷子

人が…死ねば 人が死ねば 地べたっこさまになる
鳥も 花も 鳥も 花も 虫も 花も 虫も 木も 虫も 木も けだものも
鳥も 花も 虫も 木も けだものも みんな みんな みんな死ねば 地べたっこさまになる

——中略——

山は 地べたっこさまの (ずおん、ずおーん)
地べたっこさまの 固まりだ (ずおん！)

——中略——

どこかわからない 山奥から (ずおん、ずおーん！)
地べたっこさまの 声が 地べたっこさまの 声が 聞こえる (ずおん、ずおーん！)
だから、 だから 心やさしくて 心やさしくて 勇気のある人には
きっと…… きっと聞こえるはずだ (ずおーん！)

この『地べたっこさまの詩』^{うた}を朗読研究狭山会のみinnで群読したのは、今から十四年前の六月八日『さねとう あきら 民話の世界』でした。市民会館小ホールいっぱいのお客は、民話の世界に引き込まれていきました。構成、演出をして下さったさねとう先生も大満足だったことと思います。会員十人がそれぞれ先生の民話を語りました。篠笛とのコラボもありました。入会して間もない私も『波小僧』という短編を語らせてもらいました。

博多出身の私は、イントネーションの異なるところが多く自信をなくしていました。そんな時、「いいよな、これは南のほうの話だから、その語り方もありだね」と優しい笑顔でおっしゃって下さいました。ベテランの会員の人達に混じって初めての舞台公演も無事に終えることができました。

これも先生の大きく包み込んでくださる指導のおかげでした。私が今も朗読が続けられているのもさねとう先生との出会いがあったからだと思います。

「先生 本当に有難うございました」いつまでも、地べたっこさまの声を聞きながら……